

やすだ のぼる
安田 登
 能楽師（下掛宝生流：ワキ方）
 寺子屋 講師 （阿弥陀寺）
 こどもおばけ合宿 講師 //

主著に『論語』『あわいの時代』『あわいの時代の『論語』ヒューマン2.0』
 『能 650年続いた仕掛けとは』他多数。

こままたときのお 親鸞聖人の 鳥



イラスト 中川 学

▼極楽に行きたい！

親鸞聖人の「正信偈」、第4回目です。

お寺に行くと、お坊さんたちと一緒に唱える「帰命無量寿

極楽浄土って？

らして下さるさまざまなる「光」が出てくるところを読みました。今回と次回、これまでの締めく

くりともなるとも大切な四句を読んでいきますが、今回は最初の一句についてだけお話をします。

▼本願名号正定業

「ほんがんにみょうごうしようじょうごう」

訓読をすれば次のようになります。

「本願の名号は正定の業なり」

最初に「本願の名号」とあります。

「本願」というのは、阿弥陀如来がされた約束、誓願のことです。

阿弥陀さまが、まだ法蔵菩薩だった頃、「どんな人も必ず極楽に往生させたい」と願われました。

そして「この誓願が成就しないうちは、自分は仏如来にはならない」という誓願を立てられたのです。

いまは法蔵菩薩は阿弥陀如来と呼ばれてますね。

ということは、この誓願が成就されたということであり、ということとは私

きるといふことなのです。ただ、どんな人もと言っても、ひとつだけ条件があります。それは「自分は極楽に行きたい」と願っている人だけです。だって、キリスト教を信じている人が「自分は天国に行きたい」と思っているのに極楽に連れて行かれたらビックリでしょ。イエスキリストがいらつしやると思つて行つたら、阿弥陀さまがいらつしやたら…。

いいのです。でも、それ以前に「極楽浄土ってどんなところ？」という方のために今回は極楽浄土がどんなところなのかを見てみたいと思います。

▼極楽浄土とは？

極楽浄土はどんなところか。

まず、なぜ「極楽」と呼ばれるかというと、身体

の苦しみも心の苦しきもま

ま

また、「浄土」ですから、そこに住んでいる人たちは

私

悪口なんて言いたくないし、ウソだつてつきたく

は

冷たい言葉をかける人がいる。そんな人がいない浄らかな土地、それが浄土です。

その浄土に「往(い)つて生きる」のが「往生」なのです。

では、超楽な、そして浄らかな極楽浄土って、具体的にはどのような場所なのでしょ

▼スーパー銭湯

『阿弥陀経』に書かれる極楽浄土の描写を読んだときに、最初に思ったのは「これはスーパー銭湯ではないか！」ということ

です。超豪華な、そして気持ちのいいスー

パー銭湯、それが『阿弥陀経』を読んだときに最初に

イメージでした。

まず、極楽浄土の土地は黄金

です。そこに宝の池があります。この池にも黄金の砂が敷き詰められています。この宝の池がスー

湯をイメージさせるので
す。お経には書かれてい
ませんが、この池は温泉
のように温かいに違いな
いと勝手に想像します。

池の四方には岸があが
るための階段があつて、
これが金、銀、瑠璃、水
晶という、これまたキラ
キラの階段です。

岸の上には高殿がそび
え立っています。その高
殿もキラキラ。金・銀・
瑠璃・玻瓈・碑磔・赤珠・
瑪瑙の七宝によつて飾ら
れているのです。

極楽浄土には、この「七
宝」がよく出てきます。
金・銀はいいですね。
瑠璃というの青い宝
石。ラピスラズリのこと
とも言われています。

玻瓈は、いまの水晶と
言われていますが、そこ
ら辺にある水晶とは違
います。もつと透明で、もつ
と美しく輝いています。
碑磔というのの世界最
大の二枚貝であるシヤコ
貝の貝殻。

赤珠というの赤い真
珠といわれていますが、
真珠に限らず赤く輝く宝

石全般をいいます。

そして、最後に瑪瑙。
豊かな色彩を持つ天然の
鉱物で、アゲートとも呼
ばれパワーストーンとし
ても有名です。

また、池の中を見ると、
大きな蓮華の花が咲いて
います。この蓮華がた
たものでは無い。これもキ
ラキラ輝いているのです。
青い蓮華は青く輝き、
黄色の蓮華は黄色く輝き、
赤い蓮華は赤く輝き、白
い蓮華は白く輝き、妙な
香りとともに光を放つ
ています。

光り輝くスーパー銭湯、
それが極楽浄土なのです。
▼極楽に住む人

施設が素晴らしいだけ
ではありません。
空からは美しい音楽が
流れ、天からは曼荼羅
華の花がふりそそぎます。
その花をさまざまに仏さ
まに捧げます。供養が終
わると食事のために戻つ
て来ます。

食事といつても、その
準備も必要ありません。

目の前に七宝の食器が出
現し、そこに「百味」の
食事や飲み物が満たされ
るので。が、それを食
べる必要はなく、見たり
香りをかいだりするだけ
でお腹がいっぱいになり
ます(ちよつと残念)。

また極楽にはさまざま
な種類の珍しい鳥、白
鶴・孔雀・鸚鵡・舎
利・迦陵頻伽・共命
鳥などがいます。

これらの鳥たちは、昼
夜にそれぞれ三度ずつ美
しく鳴きますが、その声
によつて自然に仏を念じ
法を念じ、僧を念ずるの
です。

また、極楽浄土に生ま
れた人には差別も競争も
なく、身体も清らかで、
智慧も明らか、神通力も
使えます。

また、顔や容(かたち)
も美しく、人間界のどん
な美男美女よりも美しい
のは当たり前。天人や天
女よりも美しいそうです。
そして、美しい服を着て
美味しい食べ物を食べて
いる。

どうです。行きたくな
りましたか。

▼思い出すための名号

「極楽浄土に行きたい」
と願えば、誰でも、どん
な人でも行けるといふ誓
願を阿弥陀さまは立てら
れました。願えば行ける
のです。

しかし、「願い」は忘
れやすいものです。
つらい時には「極楽浄
土に往生したい」と願っ
ていたのに、そのつらさ
がなくなつて、ちよつと
調子がよくなると忘れて
しまいます。

喉元過ぎれば熱さ忘れ
るといふやつです。
亡くなる時にも、「あ
あ、あれをやればよかつ
た」、「あいつにあれを
言つておけばよかつた」、
「金を貸したのをまだ返
してもらつてないぞ」な
どという煩惱がどんどん
出てきて、極楽往生など
忘れてしまいます。

そんなときに一瞬で思
い出せるようなきつかけ
の何かほしい。そこで
阿弥陀さまが考えて下

さつたのが六字の名号：
「南無阿弥陀仏」
これだけです。
何を忘れてもいいから、
「南無阿弥陀仏」だけは
覚えておきなさい。そう
すれば極楽浄土に往生で
きるように計らつてあげ
るからね、と阿弥陀さま
はおっしゃるので。

ちよつとここで突然、
話を俗なものにしてし
まつてもいいですか。
私は高校時代に「文
系」のクラスにいました。
文学や歴史が好きだから
というよりも、数学や物
理などの理系のものを勉
強したくなかつたからで
す。ところが私の高校時
代は、理科は生物、地学、
化学、物理を全部を勉強
しなければなりませんで
した。

シヨックです。
しかし、物理の先生が
素晴らしい方でした。
「お前は どうせ物理な
んて勉強する気はないだ
ろう。これひとつだけ覚
えておけば、赤点は取
らないようにしてやる」
そう言つて、ひとつの

公式を黒板に書いたので
す。
E=mc²
「これだけ覚えればい
い！」と。
そして、あれから五十
年以上経っているのに、
まだ覚えている。難しい
ことを教えてもらつても、
おそらく何も頭に残らな
かつたでしょう。ところが
がこの公式は半世紀も覚
えているのです。

しかも、この公式、い
ろいろと役にたつのです。
「南無阿弥陀仏」はそ
れ以上の力を持つていま
す。

これだけ覚えておけば、
誰でもが極楽に往生でき
るのです。
小難しい仏教の話はい
い。修行だつてしなくて
もいい。そんな汚れた人
間世界に生きていたら、
頑張ろうとしても無理だ
ろう。

「南無阿弥陀仏」だけ
でいいよと。
何と優しい、そして私
のことをよくご存知の阿
弥陀さまでしょう。

阿弥陀さままでしよう。